

013 米持町区有文書と目録作成について

1 須坂市米持町では、すでに『米持町区有古文書目録（江戸時代編）』として文書目録を作成しています。本史料目録は、それにつぐ近現代編です。

2 近現代史をつくり上げてきた米持村民（区民）の歴史が刻まれた、史料の目録として、『須坂市米持町区有文書目録（近現代編）』を作成するものです。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「013」（13番目）に位置付けて作成しました。したがって、史料番号は「013-A-1」から開始されています。

3 明治10年（1877）2月の戸籍調査によると、米持村の戸数は67戸（社寺各1含む）、人口252人でした。それが、88年後の昭和40年には89世帯、さらに20年後の同60年には289世帯、そして平成7年には339世帯となり、平成20年（2008）6月現在では、じつに506世帯1,470人に増加してきています。

ここに登場する米持区域の人々は、生きて育った故郷・地域の姿を累々と記録し、史料として遺しいまに伝えていきます。

4 米持町区民が遺し、後世に伝えてきた史料を散見すると、後掲「6」にみられるように、1000点を超えるB（B1・B2）土地税制史料のほか、C河川道路土木史料、とりわけ百々川・鮎川の氾濫による水災地復旧関係史料が目につきます。いかに土地所有を基本とした税制が村民の生活と密接していたかを示す史料群であり、また、その土地を守るために、いかに洪水と向き合ってきたかを伝える史料群でもあります。さらに、意気盛んな青年会の動きを伝える史料もみられますが、どの史料をみても、先人の生きざまを現代に伝える貴重なものです。

5 本史料目録が、米持町区民をはじめ須坂市民ほか多くの地域史研究者によって活用され、いよいよ史料調査・研究がすすみ、新たな米持町区民の歴史が開拓されることを期待いたします。

6 『須坂市米持町区有文書目録（近現代編）』は、史料内容の特徴を生かして、つぎのように分類して史料目録を作成しました。総史料番号（枝番号含む）は2290、総史料点数は3608点にのぼっています。

	分類項目	史料番号	史料点数	箱数
A	行政治安	471	577	4
B1	土地税制（明治期）	429	679	5
B2	土地税制（大正昭和期）	386	424	4
C	河川道路土木	381	676	4
D	産業経済	189	381	2
E	教育文化	400	823	3
F	その他	45	48	1
	総計	2290	3608	23

7 史料目録の作成にあたっては、史料の現状・存在形態を尊重しつつ史料閲覧者の活用の便も考慮して、つぎのようにしました。

(1) 史料名は原則として史料中に記載された表題を記載したが、無表題史料などには、本目録作成者がつぎのように () をもちいて仮表題を作成し掲げました。

(畑荒地調べ)

(生米地代金書上げ帳)

(2) 「記」、「覚」のみで内容未記載の史料については、つぎのように () 内に内容説明を記載したものもあります。

記 (祭典関係領収書)

覚 (農兵諸懸り請取り)

(3) 請取りなど切手類の史料は、便宜的に括って整理したものもある。その場合は、つぎのように一枚目の史料名を記し、他の史料については「外○点」などと略記、備考欄には「便宜括り」と記載しておきました。

記 (上納金領収書)、外 5 点

地所登記済証下付願、外 9 点

(4) 史料形態については、つぎのように略記しました。

横 (横帳)、 横半 (横半帳)、 縦 (縦帳)、 紙 (一紙)、

封 (封書)、 冊 (冊子)、 綴、など

8 本史料目録は、米持町のはからいにより須坂市誌編さん室の下記の専門員が作成しました。

井上光由 勝山一男 小林謙三 小林裕 丸山文雄 宮澤慶男

(編さん担当：青木廣安・丸山文雄)

2008 年 7 月 30 日 須坂市誌編さん室